

和歌山県白浜町番所崎に漂着した 生きたウミウサギ (軟体動物)

久保田 信 (和歌山県)

Living *Ovula ovum* (Mollusca) washed ashore at Banshozaki,
Shirahama Town, Wakayama Prefecture, Japan

Shin Kubota

和歌山県白浜町番所崎へ 2016 年 9 月 21 日の 14 時半頃、生きたウミウサギ *Ovula ovum* (Linneaus) が打ち上げられていた。白浜町のすぐ北側の田辺市に台風 16 号が上陸し、その通過後 1 日目であった。その個体は、平たく広い岩礁の波打ち際に近い水深 10 cm ほどの小さなタイドプール内で、臨海実習生により偶然発見された。黒色の外套膜で白色の貝殻を全て覆っており、元気だった。外套膜には、白い小さな斑点が規則的に散りばめられ、大形の突起も幾つかあった (図 1)。頭からは触角を伸ばし、刺激すると粘液を大量に分泌した。殻長 65 mm で、本種としては小形であったが、殻口が焦げ茶色であることで、さらに小さなクチムラサキウミウサギ *O. costellatum* Lamack やイシバシウサギ *O. isibasii* Kuroda (奥谷・佐々木 2000) とは明らかに相違していた。

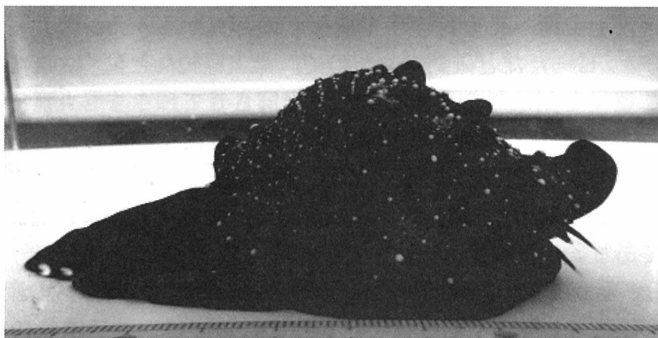


図 1 和歌山県白浜町番所崎のタイドプールに打ち上げられていた生きたウミウサギ (側面図)

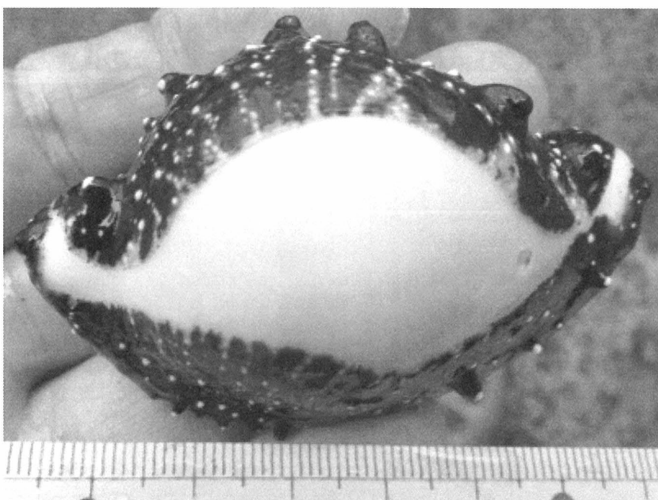


図 2 和歌山県白浜町番所崎のタイドプールに打ち上げられていた生きたウミウサギ (丸い傷のある貝殻 (背面図))

本種はインドー西太平洋の熱帯系に分布し、紀伊半島が北限とされる (奥谷・佐々木 2000)。通常、浅海性のソフトコーラル (刺胞動物) に住みつき、それを餌にもしている。従って、この台風で波にもまれて浅場に打ち上げられたのであろう。白い貝殻をよく見ると、直径 3 mm の丸い傷が一つあった (図 2) ので、打ち上げに伴う傷跡なのかもしれない。

番所崎付近で生きたウミウサギに遭遇したのは、過去 23 年間で今回が初めてだった。これまでは、番所崎周辺への打上物の中に、本種の貝殻の破片がごく少数発見されただけである (久保田・小山 2002)。

謝辞

発見者のメイリー・クレア アルバレス・ミラーさん (シンガポール出身で大阪大学学部生) に深謝致します。

引用文献

久保田 信・小山安生, 2002. 番所崎, 特に北浜 (和歌山県白浜町) へ打ち上げられた軟体動物貝殻目録 (1). 南紀生物, 44(1): 69-76.

奥谷喬司・佐々木猛智, 2000. In 日本近海産貝類図鑑, ウミウサギ科, 218, 219, 東海大学出版会, 東京.

〒649-2211 和歌山県西牟婁郡白浜町 459 京都大学フィールド科学教育研究センター瀬戸臨海実験所

Seto Marine Biological Laboratory, Field Science Education and Research Center, Kyoto University, Shirahama Town 459, Nishimuro, Wakayama Prefecture 649-2211, Japan

Email: kubota.shin.5e@kyoto-u.ac.jp